

四つの季節の鉄道ものがたり 春

ひろでんの ある風景 辻村深月

私の『朝が来る』という小説の中

に、主人公が広島に行く場面が出てくるのだが、よく人から「どうして広島だったんですか」と聞かれる。その問いかけを受けるたび、私は「初めて広島に行った時、路面電車の走る感じや、光のきれいさに感動したから」と答える。広島電鉄、通称「ひろでん」のことだ。

この小説は、中学生で妊娠してしまった主人公ひかりが、生まれた子どもを子に恵まれなかった夫婦に託すまでのことが出てくる。自分が生まれ育った町を出たことがなかった十四歳の女の子が初めて親元を離れ、心細い気持ちで出産のために訪れる土地が広

島なのだ。

地元の人からしてみたらなんということはないかもしれない景色が、初めてそこに来た人の心を捉え、救うということがある。

たとえば、私が初めて千葉駅に降り立った時がそうだ。大学入学が決まり、初めての一人暮らしに期待と不安が入り混じる私の頭上を、千葉都市モノレールが迫るようにやってきた時のあの感動。「近未来都市だ!」とそのかつこよさに衝撃を受けた。

作家になつてからは、仕事で地方に出張に行くことも増えた。いろんな町で初めての交通機関に出会うたび胸がときめく。中でも路面電車が大好き

だ。鹿児島のリトロかわいい「かごでん」、松山の「坊っちゃん列車」、名前のかわいい富山の「ポートルム」。そうそう、以前、都電荒川線を貸し切つて、自分の本のPR動画を撮らせてもらったこともある。

それぞれ見た目もかわいく、ただ乗るだけでも楽しいけれど、路面電車のいいところは、そこで暮らす人たちが日常的にその路線を使っている様子が距離感近く見られるところ。デパートの紙袋とスーパリーの袋をいっぺんにいくつも持ったご婦人や、片方の降りる駅で名残惜しそうに手を振るつきあいたてと思しきカップル。夜に乗った電車の中では、塾帰りの小学生たちがお

イラスト・岡林玲



みんな

CONTENTS

Vol. 65

2018

◎日本民営鉄道協会とは？

昭和42年に社団法人として設立、平成24年4月1日付で一般社団法人に移行、72社の民営鉄道会社で組織されています。
輸送力の増強と安全輸送の確保を促進し、鉄道事業の健全な発達を図り、もって国民経済の発展に寄与することを目的とした活動を行っております。
なお、JR各社や公営地下鉄などは加入していません。

08

展示博物館の 枠を超えて地域とともに。

◎一般財団法人 東武博物館 専務理事 館長 山田智則

東武博物館
INTERVIEW. I

04

基調報告—50 トロリー・サブワース「電鉄郊外住宅地」の明日 エンジョイ・ザ・民鉄ミュージアム

◎大東文化大学経営学部教授 今城光英

22

民鉄文化を語る 全国の鉄道博物館・ 資料館を訪ねて

RAILWAY MUSEUM GUIDE

◎名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 計画部
業務教育課長兼教習所所長 脇本裕司

20

膨大な資料で 中京圏の鉄道史を伝える。

CLOSE UP

◎電車とバスの博物館 館長 古山昌明
(株式会社東急レールウェイサービス 業務部)

16

体験型施設でまちづくり と交通機能を学ぶ。

INTERVIEW. III

電車とバスの博物館

◎公益財団法人メトロ文化財団 常務理事
地下鉄博物館 館長 賀山弘之

12

都市交通としての 地下鉄をアカデミックに伝える。

INTERVIEW. II
地下鉄博物館

特別号

民鉄文化の伝承と発信

民営鉄道の博物館・資料館——その使命と役割——

民営鉄道の多くは、鉄道と地域を結ぶ

文化装置としての博物館・資料館を運営し、
記憶に残る退役車両を大切に保存している。

『特別号』では、貴重ではあるが

表舞台に立つことの少ない、これらの施設や車両を
一堂に集めて紹介し、「地域の紐帯」としての
民鉄の役割を浮き彫りにする。

各施設には、掲載順に通し番号(1〜48)を付している。
施設の都府県所在地は、22ページの全国地図を参照。

やつの交換をする姿も。

知らない町は本来、よそよそしく心
細いものだ。私が『朝が来る』で書いた
主人公のひかりは中学生で、初めての
の街に一人で降り立ち、これからおな
かの子どもと過ごしていかなくてはな
らない。

その彼女を迎えてくれる場所に、私
は路面電車の、あの明るさが欲しかつ
た。初めて私が広島に行った時にも迎
えてくれた、あの明るさと賑やかさ。

瀬戸内海の放つ光の美しさを、あの電
車が海と都市の両方につなげてくれて
いるように思った。春の陽光を映して
透き通る海の輝きを、彼女にも見て欲
しかった。

広島とは何かとご縁があるようで、
おとし久しぶりに仕事で市内を訪れ
た日が、たまたま広島カープの二十五
年ぶりの優勝の夜だった。路面電車が
カープ仕様にラッピングされ、その周
りで喜ぶ人々を眺めながら、改めて

やっぱり、この、ひろでん、のある景
色が大好きだなあと思った。

つじむらみづき

作家。山梨県出身。2004年『冷たい校舎の時は止まる』
で第31回メフィスト賞を受賞しデビュー。11年『ツナグ』で
第32回吉川英治文学新人賞、12年『鍵のない夢を見る』で
第147回直木三十五賞を受賞。著書に『子どもたちは夜
と遊ぶ』『凍りのくじら』『ぼくのメジャースプーン』『スロ
ウハイツの神様』『ゼロ、ハチ、ゼロ、ナナ』『鳥はぼくら
と』『家族シフター』『朝が来る』『クロバナイイト』など。
近著に『かみの孤城』『青空と逃げる』がある。

